



2月の主な行事

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1日 : テレビ放送記念日 | 9日 : 肉の日、福の日   |
| 3日 : 節分       | 11日 : 建国記念の日   |
| 4日 : 立春       | 14日 : バレンタインデー |
| 7日 : 北方領土の日   | 20日 : 歌舞伎の日    |



大きな安心を  
スピーディーにお届けする

<取扱代理店>

株式会社コスモほけんサービス

代表 田澤 淑秋

九戸郡軽米町軽米8-79-2

TEL 0195-46-4023

二戸市福岡字下町8

TEL 0195-43-3733

今月のかわら版 : 1 「静電気は溜めないようにしましょう」

冬の乾燥しているこの時期になると、静電気に悩まされる方が多いのではないのでしょうか。

◆静電気の仕組み

静電気は動かない物質には発生しません。地上の物質は「+」と「-」の電気で構成されているのですが、普段は両方のバランスが保たれて安定している状態になっています。ところが、物質を動かすことによって摩擦が加わると、マイナスの電気が剥がれてしまいプラスの電気が多く残る状態になります。この状態を帯電状態といいます。人は歩いているだけ、動くだけでいたところが摩擦していますので帯電しています。これがあの「バチッ」を引き起こす原因です。

帯電状態の時に電気を通しやすい物質に触れると、プラス電気は、電気を通しやすくする乾燥した空気を利用して、失ったマイナス電気と結合しようとして、その結合の瞬間に発生する電気の放電が静電気の正体です。

◆静電気の健康への影響

静電気を溜め込むと、身体からビタミンCとカルシウムが約20%も流出しますので、健康・美容にもよくありません。また、血糖値の上昇・貧血・ストレス過敏・肩こり・免疫力の低下

体調不良の一因になることもあります。ほかにも身体が電気を帯びる事で、ホコリを肌が吸着しやすくなったり、ダニをおびき寄せやすくするなどの被害も考えられます。たかが静電気と放っておくと健康的にとてもよくないのです。

◆静電気防止&除去

静電気は服の素材の組み合わせにより起きやすさが違います。冬の定番となったフリースは軽く暖かくリーズナブルではありますが、典型的な合成繊維製品です。静電気の発生を抑えるためには、合成繊維の衣類より、綿、絹、麻、羊毛などの吸水性が高い天然繊維100%の素材が良いとされています。

また、最近では静電気除去グッズが多数販売されています。キーホルダー、ストラップ、スプレー、プレスレット、シュシュ、除電ブラシ等。

自分に合ったグッズを試してみたいはかがですか。



今月のかわら版 : 2 「ごみ分別の話」

地域によってごみ分別の基準は大きく異なっています。各市町村がその地域の实情に応じて処理計画を定めていますが、どれほど地域差があるのか調べてみました。

■環境省「一般廃棄物処理事業実態調査(平成24年度)」より(原本加工)

分類数 (種類)	1~5	6~10	11~15	16~20	21~25	26~34
市町村数	79	479	652	382	104	22
	-4.60%	-27.90%	-38.00%	-22.20%	-6.10%	-1.30%

上記の区分で最も多くの市町村が採用している分別数は11~15種類ですが、分類数が最も多いのは人口が2千人にも満たない徳島県上勝町(かみかつちょう)で、34種類に分類しているそうです。実際にごみを34種類に分別することを想像すると気が遠くなりそうですが、上勝町ホームページの分別一覧を見ると、逆に捨てるときに悩むことなく、分かりやすいかもしれないという印象を持ちました。

◆上勝町の分別の種類(ホームページにはイラスト、例示あり)

のびん、8リサイクルびん、9その他のガラス類・陶器類・貝殻、10乾電池、11蛍光管、12蛍光管(壊れたもの)、13鏡・体温計、14電球、15発泡スチロール、16古布・毛布、17紙パック、18段ボール、19新聞・折込チラシ、20雑誌・コピー用紙、21割り箸、22ペットボトル、23ペットボトルのふた、24ライター、25ふとん・絨毯・カーテン・カーペット、26紙おしめ・ナプキン、27廃油油、28プラスチック製容器包装類、29どうしても燃やさなければならぬ物、30廃タイヤ・廃バッテリー、31粗大ごみ、32家電製品、33生ゴミ、34農業用廃ビニール・農薬びん等

※33は各家庭でたい肥化するもの、34は販売店に返すもの

上勝町が目指しているのは「ゼロ・ウェイスト=ごみのない社会」で、2003年に「2020年までに焼却・埋め立て処分をなくす」というゼロ・ウェイスト宣言を行っています。分類を細かくすればするほど再利用しやすくなり、現在、上勝町のゴミステーションに集められたごみの約8割が、リサイクルによって再資源化されているということです。

小さな町で住民一人ひとりの顔がわかるからこそできることもかもしれませんが、この細かい分別の動きが全国に広がっていけば、「ゼロ・ウェイスト=ごみのない社会」の実現も夢